

Open the Window

このたび、オペレーションズ・リサーチ誌の新企画として「情報の窓」がスタートいたしました。このページでは読者が興味を持っている研究情報を、学会内外を問わず紹介していきます。さまざまな研究活動の『雰囲気』を皆様にお伝えすることが狙いです。できるだけ肩の凝らない読み物にしていきたいと考えております。

第1回目の今回は、東工大・牧本直樹氏から投稿いただいたシンポジウムのルポをお届けいたします。これは科研費「情報通信ネットワークに関する性能評価モデルの総合的研究」によるシンポジウムで、OR学会員も数多く参加されているものです。本文では講演内容も紹介されており、研究指向の活発なシンポジウムであったことが伝わってきます。今回は編集の手続き上、写真を掲載できなかったのが残念です。

「情報の窓」では、読者の皆さんからの投稿を募集しております。自分たちの研究会の紹介や関連学会の紹介、夏休みに訪問した海外の研究機関の紹介など、本誌読者に伝えたい情報をどしどしお寄せください。記事は原則として数式なし、専門用語は解説付き、できる限り写真を同時掲載といたします。また、こんな情報を掲載して欲しいという要望もお受けいたします。「情報の窓」までご意見をお聞かせください。ご意見、ご要望、記事の投稿はOR学会事務局「OR誌：情報の窓」係まで郵送されるか、corsj-mado@sakasega.mgmt.waseda.ac.jpまでe-mailにてお願いいたします。

これから「情報の窓」ではさまざまな情報を取り上げていく予定です。どうぞご期待ください。

担当：中里宗敏(青山学院大学)、水野真治(統計数理研究所)

ルポ「情報通信ネットワークに関する性能評価モデルの総合的研究」

東京工業大学 牧本 直樹

文部省科学研究費の援助を受けたシンポジウム「情報通信ネットワークに関する性能評価モデルの総合的研究」が、1月23日～25日の3日間にわたって、千葉県幕張の海外職業訓練協力センターで開催された。待ち行列と情報通信ネットワークの性能評価に関するシンポジウムは、1980年度に長谷川利治先生のご尽力で京都大学数理解析研究所で行なわれたのを皮切りに、1985年度まで数理解析研で開かれ、その後87、88年度は森村英典先生、90、91年度は森雅夫先生をそれぞれ研究代表者として、科研費の援助を受けて継続的に行なわれてきた。本年度のシンポジウムは、橋田温先生を研究代表者とする科研費の援助を受けて昨年1月に箱根で開かれたシンポジウムに継続して行なわれた。

阪神大震災の直後ということで、関西以西からの参加者の安否や交通手段などが心配されたが、参加の中止や遅れがほとんどなかったのは不幸中の幸いであった。震災直後は関西方面への電話はほとんどつながらない状況であったが、回線が破損していない地域へは電子メールでの連絡が可能だったため、開催前日までにはほとんどの方と連絡をとることができた。インターネットをはじめとする情報通信ネットワークが震災時にさまざまな形で活用されたことはマスメディアなどでも報じられているが、参加者にとっては情報通信ネットワークの新しい

利用形態と防災対策という2つの点で考えさせられることが多かったようである。

今回のシンポジウムは東京近郊での開催だったためか、参加者はここ数年では最も多い108名(大学49名、企業・官庁19名、学生36名、海外4名)であった。予想を上回る参加申込みがあったため、学生の方に少し離れた施設に宿泊していただくことになってしまったのが残念である。発表はチュートリアルが2件、一般講演が46件であった。こちらも予想を超える申し込みがあったため、2日目は午後9時、最終日も夕方までセッションを設けるというスケジュールにもかかわらず、一部の方には予稿集への掲載のみという形でご了承いただいた。なお、そのうちの何人かの方は、シンポジウム前後のOR学会待ち行列研究部会で発表されている。

今回の一般講演の内容としては、待ち行列モデルの解析、実際の情報通信システムの性能評価、分散処理システムの負荷制御、並列計算機の通信方式、情報通信システムにおけるサービスの質と費用の関係、生産システムの解析、確率モデルなどが挙げられる。以下では、発表中からいくつかを選んで概要を紹介してみたい。

情報通信システムの性能評価モデルということで、内容的には待ち行列モデルの解析に関連する話題が最も多かった。その中で、町原氏(NTT)からは、マルコフ型入力過程と処理時間に依存するバケーション長を持つ全処理式の待ち行列モデルの解析について発表があった。

